～男女共同参画の視点から～

みんなが共に支え助け合う防災ブック

この冊子は、地域防災の担い手である住民の皆さんが、性別や立場に関係なく、多様な視点を取り入れた避難所運営や、平時からの防災対策を行っていけるよう、日ごろから取り組んでいただきたい内容をまとめたものです。

防災訓練や自主防災組織での研修会など、様々な場面で、この冊子を活用して、男女共同参画の視点に基づく防災活動を具体的に進めていただけると幸いです。

静　岡　県

静岡県くらし・環境部

Shizuoka Prefecture

なぜ防災に男女双方・多様な視点が必要なのでしょうか

- 見落としがちなニーズに気づく
- 被災時の困難をできるだけ小さくする
- 防災活動と災害時の担い手を増やす

避難所

大災害時には、長いあいだ避難所で共同生活を送ったり、在宅避難を続けたりするかもしれません。

高齢者、乳幼児、子ども、障害のある人、妊産婦、外国人・・・。性別や立場が違えば、必要な住環境、物資、サービスも違ってきます。

多様な人々のニーズに配慮して、避難所の空間利用や運営を考えておくことで、みんなが少しでも過ごしやすくなり、被災時の困難を軽減できます。

自主防災組織

責任者の大半が男性では、防災活動に女性や子ども・若者が参加しにくく、参加していても重要な決めごとには関われず、様々なニーズが把握しづらくなります。また、一部の男性に防災活動の負担が集中することも問題です。

誰もが、性別や立場にとらわれないで、能力を十分に発揮することが、災害に強い地域づくりには欠かせません。

防災訓練

イザ！というときに、実際に役に立つ防災訓練にするために、女性や子ども・若者も含めて多くの人が参加したくなるよう工夫し、様々なことが学べる訓練にしましょう。

避難所で、災害のとき

●過去、こんなことに困りました●

～男女共同参画の視点から～

※下記（例）の時期や内容は、災害の種類や規模、地域により異なります。

〈例〉　～被災者の様子～

災害発生

＜ 直 後 ＞
避難所（体育館、公民館、学校など）や被災した家での生活が始まる

＜翌日～１か月後＞
避難所生活が続き様々な問題が…

＜１か月～数か月後＞
生活再建に向けた動き
二次避難所（ホテル、旅館など）への移動

＜数か月から１年後＞
仮設住宅、民間借り上げ住宅などへの移動

＜１年後～＞
日常が戻り始める
復興住宅、自宅再建など

～困りごとの一例～

〈物資の不足・配布方法〉
・女性用下着・妊産婦用の衣類、生理用品、育児・介護用品が不足
・物資担当者は男性ばかりで、女性が物資を受け取りづらい、要望を出しづらい

〈プライバシー〉
・仕切りがなく、雑魚寝が続く
・着替えや授乳が安全にできない

〈様々な立場の人のそれぞれの悩み〉
・子どもが騒いで迷惑だと言われる
・認知症の親がイライラして落ち着かず、徘徊する
・日本語が分からず情報が得られない
・ＤＶの加害者に会わないか心配
・性的マイノリティの人がトイレやシャワーを利用しづらい

〈安全面での不安〉
・屋外の仮設トイレは男女兼用で夜は暗い
・見知らぬ人も多く不安
・女性や子どもが暴力にあってしまう
・相談しにくい

〈性別で役割が固定〉
・避難所の責任者は大半が男性で、過度な負担が集中
・女性のみが炊き出しを長期間担当

避難所生活が終わっても…

〈男性の過労、孤立〉
・復旧、復興の仕事で続く過労
・仮設住宅でのアルコール依存、孤立や孤独死

〈女性や子どもなど弱者への暴力〉
・暴力、ハラスメント、ＤＶや児童虐待
※ＤＶ：ドメスティックバイオレンス。夫婦や恋人など親密な関係にあるカップル間の暴力

〈復興計画・まちづくり会議に女性やマイノリティの視点で意見が言える人が参画できていない〉
・復興住宅の仕様やまちづくりに反映されない
（例：屋外照明やトイレの仕様や場所など安全への配慮、地域の交流がしやすい環境づくり、高齢者福祉と子育て支援の充実など）

1 みんなが安心して過ごせる避難所

避難所運営のポイント チェックリスト

〈運営方法〉

さらに詳しい国や県の資料はこちら

- □ **運営責任者には男女両方を配置**
- □ **運営組織に多様な立場の代表が参画**
  - ・介助が必要な人、障害者、乳幼児がいる家庭の人、ＰＴＡ、中学生・高校生、外国人
- □ **各活動班に男女両方を配置（できればそれぞれ複数）**
  - ・特に炊き出し、食事の片付け、清掃などは男女両方で
- □ **物資担当者には男女両方を配置・・・❶**
  - ・女性用品（生理用品、下着等）のニーズ把握、女性用品の提供は女性が対応
  - ・女性用品は女性専用スペースやトイレに置く
- □ **災害ボランティアの支援も積極的に活用**
  - ・ＮＰＯ、専門家など外部の支援も活用

ボランティア活躍事例はこちら

〈人権と安全〉

相談窓口はこちら

- □ **相談窓口、支援機関の情報を掲示・・・❷**
  - ・ＤＶ、男女別、高齢者、子ども、妊産婦、障害者、外国人など
- □ **暴力を許さない環境づくり・・・❸**
  - ・啓発ポスターの掲示
  - ・巡回警備（就寝場所、男女別のスペース、車中泊エリアを重点的に）
  - ・防犯ブザー、ホイッスルの配布
  - ・照明の増設
  - ・２人以上で行動する、移動する際は声をかけあう
- □ **避難者名簿の管理を徹底**
  - ・ＤＶやストーカーの被害者を守るため、「名簿公開の可否」欄を作成
  - ・世帯ごと作成するなど、プライバシーに配慮する
- □ **感染症予防・・・❹**
  - ・手指消毒、マスク、トイレ専用の履物、ゴミの分別、食品の管理（アレルゲン表示も）、土足禁止など
- □ **多様なニーズ、在宅避難者の把握・配慮・・・❺**
  - ・高齢者、乳幼児、障害のある人、外国人、性的マイノリティの人など
  - ・在宅避難者への情報伝達、物資提供

❶～❺のチェックポイントは右のページで確認しましょう

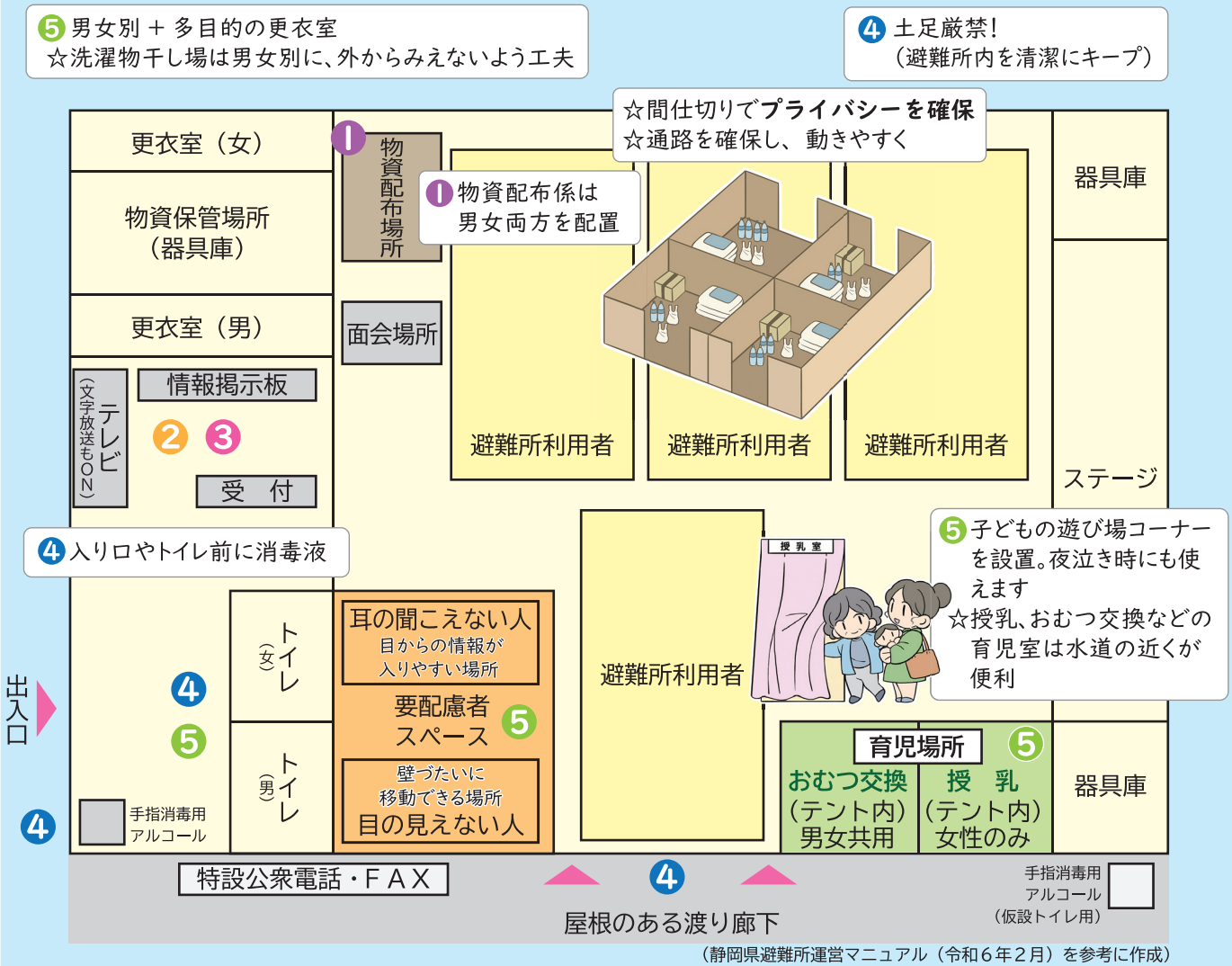
避難所レイアウトの工夫例

開設当初から設置しましょう

☐ 授乳室　☐ 男女別のトイレ　☐ 多目的トイレ
☐ 男女別の物干し場　☐ 男女別の更衣室　☐ 多目的個室

育児・介護中や障害のある人の意見を聞いて前もって決めておきましょう！

＜学校の体育館を使用する例＞



（静岡県避難所運営マニュアル（令和６年２月）を参考に作成）

2 掲示板で情報発信
☆視覚・聴覚障害者や外国人等にも伝わるよう工夫
☆男女別スペースやトイレにも相談先情報を掲示
3 暴力防止啓発ポスターは平時から貼るのも◎
（自然に啓発できます）

3 屋外トイレは照明設置、男女別に離して設置、運営者の目が届く場所に
4 トイレ清掃を徹底（感染症予防！）
5 男女別トイレ＋多目的トイレ
（介護、病気、子連れ、性的マイノリティ等様々な人が使用）

5 障害、病気、介護、妊産婦など共同生活が難しいときのための要配慮者スペース・多目的個室を

☆コミュニケーションをとれるように、いろいろな人が参加しやすいイベントや交流スペースをつくるのも◎

☆避難所チェックリスト（内閣府作成）などを活用しましょう。

5 在宅避難者への配慮
自宅から動けない人への情報伝達方法や安否確認、物資の提供などの仕組みとルールづくりを

2 男女が共に担い手になる自主防災組織

組織づくりのポイント

平時から
やっておくこと

□リーダーは男女両方

・男女共に力を発揮してこそ、災害に強い地域に
・役員は男女どちらかに偏らず、意見の出しやすい雰囲気を

□仕事別に班分けし、性別に偏らない配置

・班の編成では、性別で役割を固定しない（複数員配置できるなら男女両方）
たとえば、施設管理班＝男性、保健・衛生班＝女性などと性別で班を決めない

□様々な団体との連携

・地域の女性団体、市民団体、学校、保育所や企業などと平時から連携し、災害時にも助け合える体制づくり

□隣近所の助け合いの仕組みづくり

・普段から顔の見える近所づきあいをして、助け合える関係

□多様な立場の人が参画、少数派の意見も運営に反映

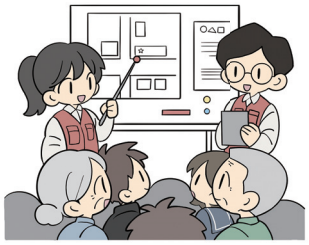
・高齢者、子ども・若者、障害のある人、性的マイノリティの人、外国人などから意見を聞き、組織の運営に反映させる

県内では、このような取組が進んでいます！

日頃の活動の参考になるような事例をホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

県内事例の
詳細はこちら

○女性の視点を取り入れた防災活動
・講座から訓練の検証まで担う女性目線の活動（静岡市）
・「これならできる」と思える防災ハンドブックの作成（牧之原市）
・自治会と連携した地区女性防災会の設置（掛川市）
・日々の暮らしに反映しやすい防災講座の継続実施（伊豆の国市）



○平時からのネットワークを活かした活動
・災害時の乳幼児家庭支援（静岡県全域）
・駿河区の地域・団体等の垣根を越えた防災ネットワーク（静岡市）
・市民活動センターが中心となった減災ネットワークの広がり（磐田市）

○被災現場からの発案
・ホテル避難所での避難者同士のコミュニティづくり（熱海市）

国や県の
計画はこちら

県の地域防災計画（令和４年８月）に、自主防災組織の役員の３割以上が女性となるよう、県や市町から助言や支援をしていくことが明記されました

3 地域のみんなが参加する防災訓練

● 防災訓練のポイント ●

□みんなが参画する防災訓練を定期的に実施

・平日昼間、夜間、休日など時間帯や場所を変えて実施
・地域の女性団体、市民団体、学校、保育所や企業などと連携

□だれもが参加しやすい工夫を

男性、女性、小中学生、高校生、大学生、高齢者、障害のある人、外国人など

・いろいろな世代や様々な状況にある人々が興味を持ち参加しやすい内容の訓練
・多様な人々のニーズに配慮した訓練

・避難所レイアウトを実際に作る
・地域のイベント（祭り、運動会など）と一緒に
・子ども会で防災ゲーム
・親子教室や料理教室と一緒に

□役割を性別で固定しない

・「機器操作は男性、炊き出しは女性」などと決めつけず、柔軟な役割分担

□備蓄品や防災資機材選びは様々な人の視点を反映

・誰もが使いやすい防災資機材を用意
・各家庭の備蓄は、性別、育児や介護等、家族の事情に応じて

□避難所のシミュレーションを

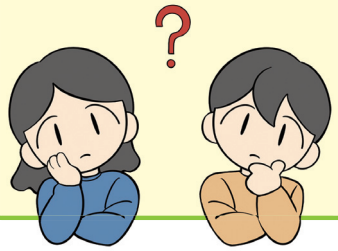
・実際の生活を想定した避難所の配置を前もって検討
・年齢や性別を問わず、多くの人が防災資機材を実際に使えるような訓練を

□防災の知識を高める

・地域防災指導員、防災士、防災マイスターなど、地域にいる防災のプロと連携
・防災訓練の企画や訓練時の指導、自主防災活動の支援などの相談
・防災講座（県・市町・男女共同参画センター、市民団体主催）に参加

講師を派遣してもらうのも◎

講師等の
詳細はこちら



あなたの地域でも実践してみましょう！

■ 地区の実情を把握しましょう

（おおよそでよいので実態に即して知る）

地区名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

世帯数＿＿＿＿＿＿＿＿世帯

人口＝＿＿＿＿人（男性＿＿人、女性＿＿人）

乳幼児＝約＿＿＿人、妊婦＝約＿＿＿人

高齢者＝約＿＿＿人（約 80 歳以上）

要介護の高齢者＝約＿＿＿人

要介護の障害のある人＝約＿＿＿人

外国人＝約＿人（言語＿＿＿＿語、＿＿＿＿語）

●防災訓練

回　数＝＿＿回（＿月、＿月、＿＿＿）

参加者数＝約＿＿＿＿人

（男性＿＿人、女性＿＿人、子ども＿＿人）

●自主防災組織の役員

会長　男性／女性、　副会長　男性／女性

役員　男性＿＿人、女性＿＿人

■ メモ

※この冊子の作成にあたっては、静岡大学グローバル共創科学部／防災総合センターの池田恵子教授に監修いただきました

～男女共同参画の視点から～　みんなが共に支え助け合う防災ブック

発行日　令和６年３月

発行者　静岡県くらし・環境部 県民生活局 男女共同参画課

〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町９番６号

TEL　054-221-3363　　FAX　054-221-2941

E-mail　danjyo@pref.shizuoka.lg.jp

Web からこの冊子を
ダウンロードできます

富国有徳の理想郷－しずおか
ふじのくに
Shizuoka Prefecture